

非営利法人ニュース

2020年
11月号
Vol. 90



発行 公益総研 非営利法人総合研究所
東京都港区新橋6-7-9 新橋アイランドビル
TEL 03-5405-1811 / FAX 03-5405-1814
編集協力 (特非)国際ボランティア事業団・(公財)公益推進協会・NPO法人設立運営センター

★★ 返済のない奨学金のお知らせ ★★

【1】「中村道子奨学金」

『介護福祉士を目指し専門学校へ進学する高校3年生対象』

- 応募資格：2021年3月卒業見込みの高校3年生
2021年4月に一都三県（東京・神奈川・千葉・埼玉）の
介護福祉士を目指す専門学校へ現役で進学すること
- 募集期間：2020年11月30日まで（当日消印有効）
- 採用人数：2021年度の奨学生は3名程度を採用します
- 給付等：専門学校2年間（24か月）、年額50万円を支給します

【2】「一郎&ミツエ奨学基金」

『市原・千葉市の高校生向け大学進学者奨学金！』

- 応募資格：2021年3月卒業見込みの高校3年生で、2021年4月に
東京都・千葉県・神奈川県・埼玉県の全日制大学に進学
- 募集期間：2020年11月30日まで（当日消印有効）
- 採用人数：2021年度の奨学生は2名を採用します。
- 給与等：大学4年間 年額50万円（合計200万円）を支給します。
- 原則として年に3回程度開催される勉強会に出席していただきます。

【3】「シャンティ奨学基金」

『関西2府4県の大学文系女子学生向け奨学金！』

- 応募資格：大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県・和歌山県の
大学の文系学部にて在籍する四年生大学の2回生または3回生
の女子学生
- 募集期間：2021年1月末日まで（当日消印有効）
- 採用人数：2021年度の奨学生は1名を採用します
- 給付等：年額50万円を支給します。



◎情報満載！今月のもくじ◎

奨学金情報	1
非営利法人関連情報	2,3
CEOコラム	4
編集後記	4

☆奨学金応募先等☆

【1】【2】【3】奨学金

→公益財団法人公益推進協会

応募用紙等郵送先

〒105-0004
東京都港区新橋6-7-9
新橋アイランドビル2階
(公財)公益推進協会
担当 高野宛

- ・中村道子奨学金
- ・一郎&ミツエ奨学基金
- ・シャンティ奨学基金

お問い合わせ

03-5425-4201

(問合せ対応時間:平日10時~18時)

※詳しくは、財団ホームページ（<https://kosuikyo.com/>）をご覧ください、
申込書等はHPよりダウンロードし、必要事項を記入して提出してください

※奨学金、助成金情報はリンクフリーですので、ご自由にリンクしていただき情報提供をお願いいたします

★非営利法人関連情報★

NPO、解散や休止検討も コロナ影響

NPO法人などの市民活動が新型コロナウイルスの影響で縮小している問題で、5%の団体が組織の解散や活動休止を検討していることが20日、団体を支援する各地のNPOセンターなどが合同で実施した緊急アンケートで分かった。調査を呼び掛けた「ひろしまNPOセンター」（広島市）の松原裕樹事務局長は「影響は深刻。多くの団体が資金面で不安を抱えている」と訴える。調査は6～8月に実施。コロナ禍で抱える問題を尋ね、42都道府県のNPO法人や一般社団法人など569団体が答えた。必要としている支援策で最も多いのは「資金」、次いで「情報提供」だった。（東京新聞 10月20日）

八幡浜の活性化策 地域資源活用探る

NPO法人「八幡浜元氣プロジェクト」が、地域資源を生かした八幡浜市活性化のアイデアを募る「ソーシャルビジネスチャレンジコンペ」を開催する。対象は小学生から大学生までで、個人・グループは問わない。2021年1、2月、書面とプレゼンテーション形式で小中高大の各部門を審査する。地域課題の解決に向けた学生たちの企画実現につなげようと計画。参加希望者を対象にしたワークショップが17日、同市沖新田のみなど交流館であった。市内の小中高生12人が参加。コンペの審査委員長で中小企業診断士の東矢憲二さんが講師を務め、ビジネスの基礎知識や地域資源の見つけ方などを説いた。八幡浜市宮内小6年男児は「自分がやりたいことでなく人が求めているものを提供するのが大事と分かった。八幡浜の名産を全国へ売り込むプランを一人で考えたい」と意欲を燃やしていた。コンペ参加には登録と事業計画書の提出が必要。（愛媛新聞10月25日）

コロナ禍の市民活動は 茅野で実践講座

茅野市の市民活動センター「ゆいわ―く茅野」は22日、実践講座「コロナの時代をこう乗り切る」を同センターで開講した。市内を拠点に活動する7団体の17人が参加。新型コロナウイルスが市民活動にも影響を及ぼす中、計3回の講座でコロナ時代の実践方法を考える。初回は事例発表を聞いたり、「新たな活動の在り方」を探るために課題を整理したりし、講師は「目的を見詰め、どの活動なら続けられるか考えて」と助言した。センターの活動団体から「活動したいけど、どうすればよいか迷っている」などの声を受けて企画した。市内3団体が実践事例を発表。自分たちが好きなことを楽しむ「わいわいサロン」は、体調把握やマスク着用といった対策を取りながら、マレットゴルフや絵手紙などできる活動から再開していると紹介した。NPO法人八ヶ岳森林文化の会は、一般対象の観察会を時間短縮して実施し、昼食は取らない、参加者数を減らすなどの工夫を例示。子ども食堂「ほんわか食堂季の味」は、会食を中断し、弁当を提供していると発表した。合唱グループに関わる参加者からは「オンライン会議システムを取り入れても歌は時差ができて難しい。試行錯誤している」との悩みが聞かれた。講師を務めた同市市民活動アドバイザーの福島明美さんは「活動ありきではなく、目的をぶらさずに状況に合わせて活動することが大切」と指摘。「今できることを明確にしてほしい。ルールを定め、やれることを一歩ずつ進めることが重要」と話した。11月にあと2回開き、団体ごとの活動・行動計画やガイドラインを作り、活動に生かす。（長野日報 10月23日）

買い物やごみ出し高齢者をサポート

高齢者世帯の買い物代行やごみ出しなどをサポートする江北町の住民ボランティア「お助けサポーター」の1期生に18人が登録された。2021年度からの本格スタートで、本年度は試行期間として現場で経験を重ねる。高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし、住民同士が支え合う地域づくりを進めるため、町がサポーター制度を創設した。事前に町に申し込みした65歳以上の高齢者に対し、サポーターがごみ出しや買い物代行などを行う。要介護認定を受け、介護保険サービスを利用する高齢者には、ペットの世話や嗜好品の買い物なども行う。介護保険サービスではこうした日常生活の援助の範囲を超えるものは対象外で、サポーター制度が補う。町は本年度からサポーターの養成講座を開き、家族の介護の経験者や民生委員ら50代～70代の19人が受講した。全5回の講座を修了した人のうち、サポーター認定を希望した18人を登録。山下春代さんは「講座で相手のことを考えた声掛けなどの大切さを学んだ。公的な組織だと支援活動がやりやすいと思う」と語る。試行期間の本年度は、2人一組で活動し、現場で経験を積む。利用は無料。町の担当者は「ボランティアの支援により、専門職は自分たちしかできないサービスに時間を充てることができる。より介護サービスが必要な人にサービスが行き届くような仕組みにもつなげたい」と話した。（佐賀新聞10月30日）



子どもの目線で移住PR 北九州市

北九州市は人口減対策の一環として、子育て世帯の移住促進に特化したサイト「市移住子どもクラブ」を立ち上げた。特に目新しいのが「子ども目線」。同市に移り住んだ子どもが地域の魅力を探したり、親が子育て環境などについて語ったりした記事や動画を随時掲載。コロナ禍で地方移住への関心が高まる中、子育て世代へのアピールを強める。同市は、男女共同参画社会の実現を目指すNPO法人「エガリテ大手前」（東京）による政令市の子育て支援ランキングで2011年度から9年連続1位となっている。サイトは8日に開設。「移住子ども通信」では、同市に移住した子どもが自身の暮らしぶりを文章と写真で紹介。小学生の男子の子が「門司港は近くに海も山もあるんよ」「ほくは戸ノ上山（門司区）に虫とりかに行ってる」と、飾らない言葉でレポートする記事を掲載している。「こどもパーティー体験」では、子どもがカメラ片手に市内の観光施設を巡り、5分程度の動画で紹介。そのほか、同市の魅力をイラストで伝える4コマ漫画や、子育て世代の親へのインタビュー記事なども掲載している。記事は定期的に更新する予定。市地方創生推進室は「子どもの素直な目線で見た北九州市の魅力を発信したい」としている。（西日本新聞 10月22日）

＊内容に関しては、問合せ先に直接問合せをお願いします

現代のわらしべ長者？

新型コロナウイルスの影響で困っている人を支援しようと、大阪市鶴見区のNPO法人「みらくる」が、物々交換で手に入った品を最終的に換金して寄付する「赤い糸プロジェクト」を展開している。9月、100円ショップで購入した「赤い糸」からスタートした物々交換は交換者の善意で支えられ、「一軒家を最大10年間無償で借りられる権利」にまで発展してきた。1本のわらを元手に物々交換を繰り返して長者になる昔話「わらしべ長者」にヒントを得た吉村さんが、「寄付の裾野を広げ、楽しみながら社会貢献に参加してもらえれば」と考案。「赤い糸で人と人をつ結びつきたい」との思いを込めた。9月24日にホームページでプロジェクトを発表し、交換を開始。最初は飛び込みで電話をかけて交換相手を探したが断られ続け、ようやく話を聞いてもらったのが産児島島のコーヒー豆専門店だった。疫病退散を祈るアマビエのイラストを入れたコーヒーを発売している店主は、「夢があって良い」と「アマビエコーヒー」3セットとの交換を快諾。100円の糸が、一気に約80倍の価値に変った。コーヒーは東京の漫画制作会社の「オリジナル漫画制作権」に。その後も、元プロ野球選手、木村昇吾さんの「オンライン野球トーク60分と西武時代のユニホーム」▽「色鉛筆6本」2000セット▽「反射音式イヤホンマイク」100個 へと形を変えていった。さらに、1本の電話がプロジェクトを動かした。所有する鶴見区内の空き家でフリースクールの開設を計画していた同区の主婦、原小代子さんがコロナ禍で計画を断念し、一緒に空き家を活用してくれる人を探そうと、地域でフリーペーパーを発行している吉村さんに相談。プロジェクトの話を聞き、3階建て約85平方メートルの一軒家の無償貸与を申し出た。24日正午まで、交換を募集している。交換者も、手に入れた品を社会のために役立て、善意の輪が広がっている。コーヒーはコロナ患者を受け入れている病院に、色鉛筆は幼稚園に寄付された。漫画制作権は木村さんがコロナで売り上げが下がった飲食店に」とツイッターで募集し、沖縄の離島のパン屋に贈られることになった。吉村さんは「コロナで困っている人を救うためには、多くの人に当事者として考えてもらうことが大切。物々交換の問口を広げて待っています」と話す。プロジェクトは11月22日まで継続中。（毎日新聞 10月19日）

フードドライブの輪よ広がれ

NPO法人フードバンク信州が主催、県などが後援する「第二回コロナ対応子ども応援プロジェクト」フードドライブが13日、県飯田合同庁舎（飯田市追手町）で行われた。食料支援を必要とする家庭などを応援する食品が、多くの住民から寄付された。本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、家計に深刻な影響が出ているほか、フードドライブの活動自体も縮小傾向にある。このため県などは、県庁と各地域振興局が入る合同庁舎で年4回、一斉にフードドライブ活動をしようと企画。初回は6月に行った。提供を呼びかける食品は缶詰、レトルト食品、カップ麺、防災品、菓子など、常温保存できて賞味期限が一月以上あるものや、2019・20年度産の精米など。県庁と飯田を除く県内八つの合同庁舎では、16日に一斉にフードドライブが行われる。同プロジェクトでは、フードバンク信州のホームページを通じて、食料の提供を希望する家庭も募集している。（中日新聞 10月14日）

子ども食堂開催、半数めど立たず

新型コロナウイルスの影響で、地域の子どもに無料か安価で食事を提供する「子ども食堂」の半数近くで開催のめどが立っていないことが、支援団体の調査で分かった。担当者は「感染リスクを懸念して足踏みするケースが多い」と話す。NPO法人「全国こども食堂支援センター・むすびえ」などが9月下旬に全国342の子ども食堂を対象にアンケート調査を実施した。それによると、一堂に会しての子ども食堂の開催について、「予定が立たない」と回答した割合は48.0%で、同様の調査を行った6月に比べ9.3ポイント増加した。7～8月の感染再拡大が影響しているとみられる。9月時点で開催したのは24.0%、10月から開催予定なのは6.1%だった。食堂運営に当たっての困りごとを問う項目では「感染防止の対応が難しい」が最も多かった。「クラスターが発生すれば誰からも守ってもらえないのでは」といった不安の声があるといい、支援活動は弁当や食材の配布が主になっている。アンケートをまとめたむすびえ理事の釜池雄高さんは「子ども食堂は子どもたちがつながるための居場所。今後、クリスマスなどスポット開催の機会が増えてくれば」と期待を寄せる。（時事通信11月4日）



新型コロナ NPO8割事業に影響

わかやまNPOセンター（和歌山市）が、県内のNPO法人などに新型コロナウイルスの影響を尋ねる調査を実施した。活動中止など事業への影響が出ていると回答した割合が約8割となったことが分かった。必要な支援策では、資金支援を挙げた回答が最も多かった一方、会議などでオンラインを利用している割合は18%にとどまっていることも判明した。調査は7月に実施。718のNPO法人や任意団体などに郵送し、74が回答（回答率10・3%）した。事業への影響は「現在影響が出ている」が59団体（79・7%）で最多。「今後影響が出ると思う」が7団体（9・5%）、「当面影響は出ないと思う」と「分からない」が各4団体（5・4%）だった。影響が出ているとした59団体では「3月より寄付、売り上げがゼロになり、運営できなくなった。障害者は5月中旬まで自宅や施設で自粛した」（障害者支援団体）▽「子ども食堂など、全て3～5月中止にした。6月からは3密を避け、2グループにするなどして再開している」（子ども食堂運営団体）などの声が寄せられた。一方、必要な支援策（複数回答可）を尋ねた設問には「資金の支援」が31件で最多。活用を検討している資金支援（受給済みと申請中）は、国の持続化給付金が計12件で最も多く、民間の助成金が計8件と続いた。課題として、「法人格がないので対象外」と答えた任意団体もあった。一方、会議などでオンラインを使っていくか、利用状況を尋ねたところ、「行う予定はない」が28団体（37・8%）で最多となり、インターネット環境に不慣れな高齢者が運営に携わっている団体が多いと考えられるという。同センターによると、現在は少しずつ活動を増やしている団体が多いが、コロナ前にはほど遠い状況だという。同センターの植田祐起代理事は「公的サービスが届かないところがNPOなどが担ってきた面があり、資金が止まれば支援も止まる。団体が活動を続けられるよう、社会で助ける仕組みが必要だ」と指摘している。（毎日新聞 10月16日）

ホタル舞う水辺もう一度 ピオトープ再生へ

野生のホタルがすめる自然環境を整備しようと、白山市鳥越・吉原地区の住民十六人が、ボランティア団体「綿ヶ滝親水公園ほたるの会」を立ち上げた。手取峡谷に流れ込む落差約32メートルの「綿ヶ滝」（同市下吉谷町）に隣接する同親水公園内のピオトープを再整備する。第一回の草刈りや清掃を11月8日に行う。親水公園は約15年前、旧鳥越村が建設し、約5,500平方メートルの広さ。完成当時は、農業用水から取水した透明な水が流れる小川や池があった。散策路も整備されていたが、現在は水が止められて池は干上がり、公園は雑草に覆われている。この親水公園を再び整備し、故郷の自然を保全する場にしようと、同市下吉谷町の畑昌幸さんが仲間を募り、今月17日、ほたるの会を立ち上げた。当面の目標は、かつては一般的に見られたホタルやオニヤンマが生息できる水辺環境を復活させることだ。畑さんは「今ではホタルを見たことがない子どももいる。見せてあげたい」と意気込む。旧鳥越村職員時代に親水公園の設置に携わった西山衛副会長は「山村の良さを生かした公園にしたい。個人的にもピオトープの再生はうれしい」と話していた。（中日新聞10月24日）

高齢者の憩いの場に シニアカフェ

高齢者が誰でも気兼ねなく利用できる憩いの場を佐賀県鹿島市社会福祉協議会が同市中村に開設した。「シニアカフェ」と銘打って週に1回オープンする。特に、男性が集まりやすいように配慮し、地域の居場所づくり活動を推進する。社協が、NPO法人こころの福祉施設「もりの家」を借りて開いた。地域福祉の向上が目的で、加齢とともに自宅に閉じこもりがちになっている高齢者に足を運んでもらい、人と話したり、一緒に体を動かしたりして仲間づくりの場にする。初回の2日は、約10人が利用した。中には初対面の人たちもいたが、やがて「同世代トーク」に花が咲いた。利用した栴島正春さんは「色んな話ができただので、これから仲良くなれると思う。気軽に来られるところがいい」と話していた。シニアカフェは年内は毎週月曜、午後1時～4時に開設。対象は65歳以上。送迎もある。利用者とともに運営をサポートするボランティアも募集している。（佐賀新聞11月7日）

弘前の忍者屋敷 保存決定

弘前の忍者屋敷、保存へ。弘前藩に仕えた忍者部隊「早道之者（はやみちのもの）」の活動拠点だったとされる弘前市森町の古民家「旧相馬家住宅」は、所有者による維持管理が困難となり取り壊しの可能性があったが、弘前観光ボランティアガイドなども務める市職員、佐藤光磨さんが保存を前提に私財を投じて購入、今後観光スポットとして活用していくことが決まった。早道之者の調査研究を行っている青森大学忍者部顧問の清川繁人社会学部教授によると、早道之者は、蝦夷地の監視役を幕府から命ぜられた弘前藩が甲賀忍者の中山小隼人を使い抱え結成され、その結成所は、移転を経て1735年ごろに現在地に移ったとされる。一度は解散し屋敷は取り壊されたが、5年後に再び結成された際に再建。現在の建物が当時のものかは不明だが、江戸時代後期～幕末のもので、実際の忍者部隊の活動拠点として現在まで残るものとしては国内唯一だという。今後は、11月からマイクロツーリズムを手始めに忍者屋敷見学ツアーを開催しながら補修を進め、2年後には、民泊施設として宿泊体験ができるようにしたい考えだ。（陸奥新聞 10月14日）

困窮世帯に食材配布 食堂運営のNPO

NPO法人川崎寺子屋食堂（川崎市多摩区）が運営する寺子屋食堂の「食材配布会」に支援の輪が広がっている。新型コロナウイルス感染拡大の影響で集合活動を中止した4月以降、ひとり親家庭向けに月2回の配布会を実施。当初、1世帯当たりへの配布は肉や野菜それぞれ2キロ程度だったが、7月以降はコメ10キロも加わるなど充実してきた。寺子屋食堂は3年前から、同区の「長尾いこいの家」と「昔いこいの家」を利用し、平日午後5時から週4回開いている。主に母子家庭の小中高生が大学生やボランティアから学習指導を受け、夕食を一緒に囲んでいる。運営費は寄付金などで賄っているという。市によると、4月1日時点で市内のひとり親世帯は約7千世帯。母子家庭の生活保護受給世帯は減少傾向にあるものの、依然として約1100世帯（9月時点）に上るといふ。NPO法人の活動は、コロナ禍で施設の閉鎖などもあり、3月から5月末までは休止に。しかし「食事に困っている母子家庭はいる」（山縣和彦理事長）現状を受け、これまで弁当代としてきた資金や寄付を充てるなどして食材の配布に切り替えた。当初は肉や野菜を配っていたが、取り組みを知った市民らからコメや缶詰などが寄せられるようになったという。6月からは、3密（密閉、密集、密接）回避のため、中高生を対象にインターネット会議システム「Google Meet」を活用したオンライン授業も始めるなど、手探りで学習支援も続けている。食材配布は、臨時休校中で学校給食がなくなり屋食に困っていた中学生たちのセーフティネットに。今月21日の配布会にも中学生らが訪れ、寄付者への感謝のメッセージを記してコメや肉、野菜などを受け取った。会場を訪れた女性は「コメの支給は助かる」と話していた。山縣理事長は「集合して活動できないのはさみしいが、需要がある限り配布会は続けていきたい」と意欲を見せている。（神奈川新聞10月25日）

耕作放棄地にクヌギ植樹 お茶炭に

珠洲市東山中町の「大野製炭工場」と同市のNPO法人「奥能登日置（ひき）らい」などが、耕作放棄地をクヌギの林に再生する取り組みを続けている。十月中旬には植林体験イベントを開き、同市日置地区の山林に苗木三百本を植えた。クヌギは約8年後、同社が製造する茶道向けの「お茶炭」の原料として伐採する。同社の大野長一郎代表は「炭焼きを中心とした持続可能な循環型の里山づくりへつなげたい」と話している。クヌギの植林は、1980年代ごろから耕作放棄地となっていた製炭工場近くの日置地区の山林を活用しようと、2004年から大野代表が始めた。同市のNPO法人「能登半島おらっちゃん里山里海」などの協力も得ながら、これまで約210アールに6400本の苗木を植樹。十年ほど前からは毎年植林イベントも開き、ボランティアスタッフを募って里山保全の取り組みを広げてきた。10月17日は、同市飯田小学校の児童や緑丘生の生徒らを含む、市内外の200人が参加。あらかじめ日置らしいスタッフらが草刈りといった整地をしていた約10アールの耕作放棄地にスコップで穴を掘り、高さ1メートルほどの苗木300本を植えていった。クヌギがお茶炭として使われることもあり、植林後は参加者ら向けのお茶会イベントも開かれた。県内で炭焼きを専業で行うのは現在、大野製炭工場のみという。大野代表は「まだ見ぬ次世代の炭焼き職人のためにも、炭焼きを価値ある持続可能な地産産業とするような里山を育てていきたい」と語った。（中日新聞11月6日）

「来年の今頃あなたは何してる？」



公益総研株式会社 主席研究員兼CEO
公益財団法人公益推進協会 代表理事
(特非)国際ボランティア事業団 理事長 福島 達也

最近ニュースを見て、ビックリした人が多かったのではないだろうか???

バイデン?? 株価?? いえいえ、倒産の話だ!

東京商工リサーチが11月10日に発表した10月の全国企業倒産件数は624件、前年同月比20.0%減と前年を下回り、負債総額は同11.5%減の783億4200万円だったそうだ・・・

んんん、ちょっと待った!! コロナ禍で、空前絶後の企業倒産の嵐が吹いているんじゃないかと、コロナの影響を全く受けなかった前年を下回っている?? 何でなの?? という人も多いのではないだろうか?

コロナなんて大したことないんじゃないか! なんて思う人も出てくるようなニュースだが、実態は全く逆だ!! 倒産というのは、どんなに状況が悪くても、必ず悪あがきをするものだ!! 貰えるものはもらおうと、助成金に群がり、借りれるものは借りようと、融資に群がるのだ。本来であれば、融資というのは、ちゃんと返済できる見込みのある企業に貸すのが前提である。だって、返してくれないと、銀行だって困るのは当たり前だ。しかし、今回は、詐欺師たちにもバンバン配って逮捕者が続出している「持続化給付金」同様、原則として、コロナで困っている企業には、バンバン貸せ! というのが政府のお達しだ!! だから、本来であれば死に体である企業も、ほとんど業にしがみつこうと、政府や自治体、金融機関の資金繰り支援策に殺到したのである。

もちろん、貸す方も、コロナで売り上げが落ちていけば、ほぼ無条件でお金を貸すわけだから、そりゃ大変だ。緊急事態宣言が終わった7月以降、バンバン貸したものだから、それから4カ月連続で倒産が前年同月を下回ったわけである。笑っちゃうのはこの10月の倒産だ! なんと1971年以降の50年間で、1989年に次ぐ、2番目の低水準だったそうだ!! そこだけ聞けば、めちゃくちゃ好景気じゃん! バブル再来か???

何度も言うが、これはあくまでも、政府などによるじゃぶじゃぶ貸し出す金融支援による延命措置に過ぎないのだ!!!

やがて、延命措置も限界が来て、次に恐ろしいものが訪れてしまうのだ!!!

そう、返済だ!! だって、ほとんどの企業は、特別融資を受けているだけであって、貰っているわけではないのだ。融資を受けたら返済しなくては行けないのだが、今回は返済がほぼ1年くらい猶予されているので、借りてから1年は延命できるのだ。

しかし、1年たてば、息切れしてきて、やがて返済ができずに倒産するというシナリオだ!!

それもそのはず、お金を借り始めても企業の売り上げは落ちる一方で、お金がたまるどころか、ほとんど借りたお金は食いつぶしていることだろう。本来は1年後ごろから返済が始まるのだから、それまでにある程度儲けておかないと返済ができないのだが、コロナの影響が当分続いているので、全く回収どころか、さらに業績は悪化の一途をたどっているのが現状だ!

返済期限までは何とか延命できるだろうが、返済期限が訪れた途端、借り入れをしたほとんどの中小企業が潰れていこう。

そう、それが来年の7月あたりだろう!

そのころの日本では、めちゃくちゃ規模の小さな国際運動会があるはずだ!! 国際的な運動会のはずが、世界中から出場辞退の嵐が吹き荒れ、気が付いたら、世界大会なのに日本人が「金・銀・銅」を独占するという、かなり珍しい国際運動会が東京で行われる頃、気が付いたら、国内は倒産の嵐で、失業者は街にあふれ、自殺者が急増し、東日本大震災ばりの、過酷でつらい日常が訪れることだろう・・・。

実は、倒産は減っていても、その予兆はもう始まっているのだ。嘘だと思ったら新聞を見てみて欲しい。毎日のように新聞に掲載されるのは、求人ではなく、早期退職や人員カットの報道だ!

「近ツリ、個人向け店舗を3分の1に 希望退職も募集」「三菱製鋼、希望退職100人募集 コロナ禍で業績悪化」「青山商事、希望退職400人募集 80店閉店へ」「タムロン、希望退職200人募集 国内工場人員の4割」「セガサミーHD、希望退職650人募集 コロナで打撃」「1200人希望退職LIXIL幹部ポストも大幅削減」「ロイヤルHD、希望退職200人募集 外食で最大規模」「ワタベウエディング、希望退職120人 直営11店閉鎖」「三菱自動車、希望退職500~600人募集」「武田薬品工業、国内で希望退職募集 30歳以上対象」「チムニー、希望退職100人募集」「レオパレス、希望退職に1067人応募 社員の約18%」「ワールド、200人の希望退職募集 360店閉鎖」「シチズン時計、希望退職550人募集」「ラオックス、希望退職250人募集」・・・

つい最近だけでも、誰もが知っている企業が名を連ねているのだ。

大企業は何とか人員削減で乗り越えるだろうが、もともと人の少ない中小企業は削減できる人もいないのだから乗り越えられないわけがないのだ。むしろ、来年の夏以降、あなたの周りで、倒産や希望退職などに合わない人がどれほどいるだろうか??

私の予想では、国民のおよそ半分には、倒産や人員整理、給料・ボーナスカットなど、何かしらの悲劇が訪れているだろう。

そう、あなたがそうならない確率は50%なのだ!!

いや待てよ! カットされた人たちはどこに行くのだろうか???

そうか!! 近年、水面下でかなり真剣に進んでいる国家プロジェクトがあるではないか!!

そう、宇宙開発だ!! 会社を辞めたら、日本国内どころか世界中で働き口はないだろうから、行くのは宇宙かもしれない・・・

いつか皆さん、火星が月で会いましょうか!!

.....CEOコラムバックナンバーはこちらから→ https://www.iva.jp/nposouken/ceo_column.html

編集後記

最近寒くなってきましたが、読者の皆さま体調はいかがですか。風邪などにお気をつけください。最近「江戸文化歴史検定®」という検定を受験しました。それに関連して、昔から日本人は旅行好き? というような話題を。日本人は古くからお伊勢参りや出雲大社への参拝など、好んで旅行に行っていました。江戸時代の旅行は国内でも関所を通過するための通行手形が必要でした。有名な言葉に「入鉄砲に出女」という言葉があります。「出女」は人質として置かれた大名の妻女を逃がさいたための幕府の政策でした。また関所破りは死刑とされていましたが、実際は道に迷ったことになって追いつくことも多かったです。そういえば現代のパスポートはコロナのせいで、最近全然使えませんか・・・。(しらさぎ)